

都市基盤分野 政策 2 「交流連携を支える交通環境の充実」

目指す姿

安全で快適に移動できる交通網が、市民や来訪者の往来や経済活動を支えている。

【現状と課題】

- 本市の公共交通利用者は、近年、微増傾向にありますが、人口の減少率が大きい郊外部や島しょ部のほか、一部市街地においても交通空白・不便地域が散在しており、そのような地域を中心にバス路線や航路など公共交通を維持・確保していく必要があります。
- 交通死亡事故に占める高齢運転者の割合が増加傾向にある中、高齢者等が自らの運転に依存しなくても生活できる公共交通を中心とした交通環境の構築が課題となっています。
- 播磨圏域の連携中枢都市で全国屈指のものづくりの拠点でもある本市では、朝夕を中心に道路交通量が多く、市内各所で渋滞が発生し、市民の日常生活のみならず経済活動にも支障をきたしています。
- 本市には、踏切道改良促進法に基づき改良の実施が義務付けられた「改良すべき踏切道」が市道で7箇所あり、円滑な交通が妨げられています。
- 本市が管理する道路や橋りょうの延長は中核市平均と比べ長く、今後、管理修繕費の増大が見込まれています。
- 平成 29 年（2018 年）現在、本市では全交通事故件数のうち歩行者と自転車が関係する事故の割合は 34.4%と県内平均の 32.4%よりも高くなっています。
- 自転車は環境にやさしく健康に良い身近な交通手段として、近年、スポーツ自転車を中心に利用ニーズが高まっています。本市は、市街地の大半が平地であり自転車利用に適していますが、走行空間が十分に整っていません。

【目指す姿を実現するための方向性】

人
地
域

ア 地域を支える公共交通網の構築

交通事業者とともに路線バスや航路、鉄道のサービス水準の維持・向上に努めるとともに、公共交通空白地等におけるコミュニティバスやデマンド型乗合タクシーの導入など、地域の実情を踏まえた効率的で持続性の高い公共交通網の構築を、行政や交通事業者だけでなく地域住民の参画と協働により進めます。

活
力

イ 新たなモビリティサービスの導入促進

誰もが効率よく、かつ便利に移動できる交通環境を整えるため、自動運転等の先端技術や、ICT 等を活用した MaaS など、新たなモビリティサービスの導入を進めます。

土
台

ウ 鉄道駅の利便性・利用環境の向上

JR 姫路・英賀保間に新駅を設置するとともに、既存駅において改札口へのアクセス性の向上とバリアフリー化を進めることで、鉄道の利便性や鉄道駅周辺の利用環境の向上を図ります。

エ 地域内道路網の整備と計画的な更新

- 市内における交通混雑の解消をはじめ、移動利便性や安全性などの向上を図るため、都市計画道路や生活道路の整備を進めます。
- 道路や橋りょうなどの適切な管理、点検や予防的な修繕、計画的な改修・更新によりライフサイクルコストの縮減を図ります。

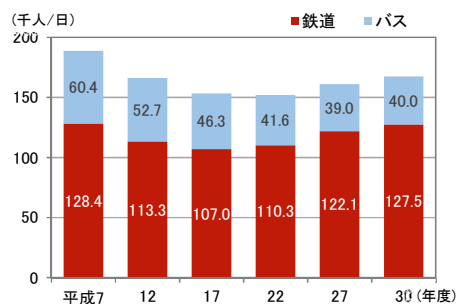
オ 安全な道路空間の創出

- ガードレール等の交通安全施設や、歩道、自転車道などの整備、電線類の地中化などを進めることで、歩行者や自転車が安全で快適に移動できる道路空間を創出します。
- 「改良すべき踏切道」が集中する飾磨駅周辺等において、新たな改札口の設置や鉄道と道路との立体交差などの対策を進めることで、安全で良好な環境の創出を図ります。

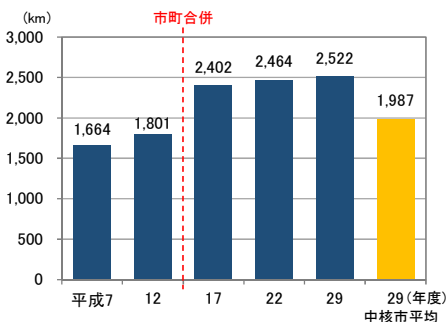
カ 広域交通網の整備促進

- 播磨臨海地域道路や国道 29 号姫路北バイパス等の整備促進により、播磨地域の産業や経済活動を支え、災害時には緊急輸送路の役割を担う広域道路網の構築を図ります。
- 海上輸送における玄関口となる国際拠点港湾姫路港を、物流に加え、人々が交流する播磨地域の拠点として整備促進し、利用環境の向上を図ります。

※関連データ：市内の鉄道、バス乗車人数の推移



市が管理する道路延長



(資料) 建設局提供資料、姫路市総合交通計画、姫路市統計要覧

市民、地域コミュニティ、企業・団体に期待すること

市 民

- 環境負荷の少ない公共交通の利用を心がけましょう。
- 道路の陥没や損傷などを見つけたら、速やかに道路管理者（市など）に情報提供しましょう。

地域コミュニティ

- ひめじ街路樹アダプト制度に参加し、植樹帯など道路の清掃活動を行いましょう。

企業・団体

- 交通事業者は、事業者間の連携による乗継利便性の向上やバリアフリー化など公共交通の利用環境の向上に努めましょう。
- 従業員に公共交通による通勤や時差出勤を推奨するなど、交通渋滞の緩和に協力しましょう。